

アートな麻布に魅せられて⑯

寄稿 安藤記念教会と小川三知

小川三知研究家 井村 馨

港区麻布・仙台坂の上に教会がある。日本基督教団 安藤記念教会。手掘り跡が残る大谷石の石造、威厳を感じる建物は1917(大正6)年に建てられた。

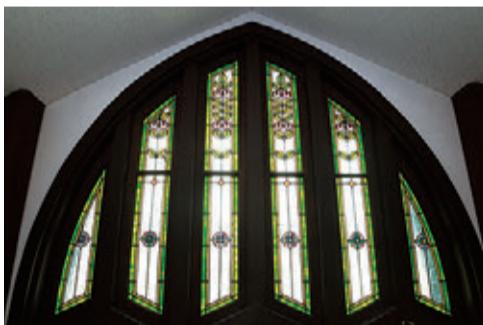
安藤記念教会には3種類のステンドグラス作品がある。通りに面している大窓、礼拝堂正面百合の意匠の2枚1対、十字架の上の2枚1対。写真や日記などの記録から、大窓と百合に関しては作者がわかっている。

作者の名前は小川三知おがわさんち(1867(慶應3)~1928(昭和3)年)。駿府藩(現静岡市)出身のステンドグラス作家である。家業の医院を継ぐことを求められていたが、絵画への憧憬が捨てきれず東京美術学校(現東京藝術大学)に入学、日本画を学んだ。その後渡米、洋画や図案を学びステンドグラスに出会った。

小川の元で働いていた羽淵寛の記憶によれば、小川の心を捉えたのはアメリカで見た「オパールセントグラス」というガラスであった。

先生の目を驚かせたのはオパールセント=グラスであった。一片の生地の中に幾種類かの色が流れ、ちょうど宝石を透かしたように見えた。(中略)生地の中の部分を選べば十分に立体感が得られ、しかも油絵のような効果が得られる。(中略)先生はどうでもこの生地を使ったステンド=グラス技術を日本に持って帰りたいという欲望がむらむらと起こった。

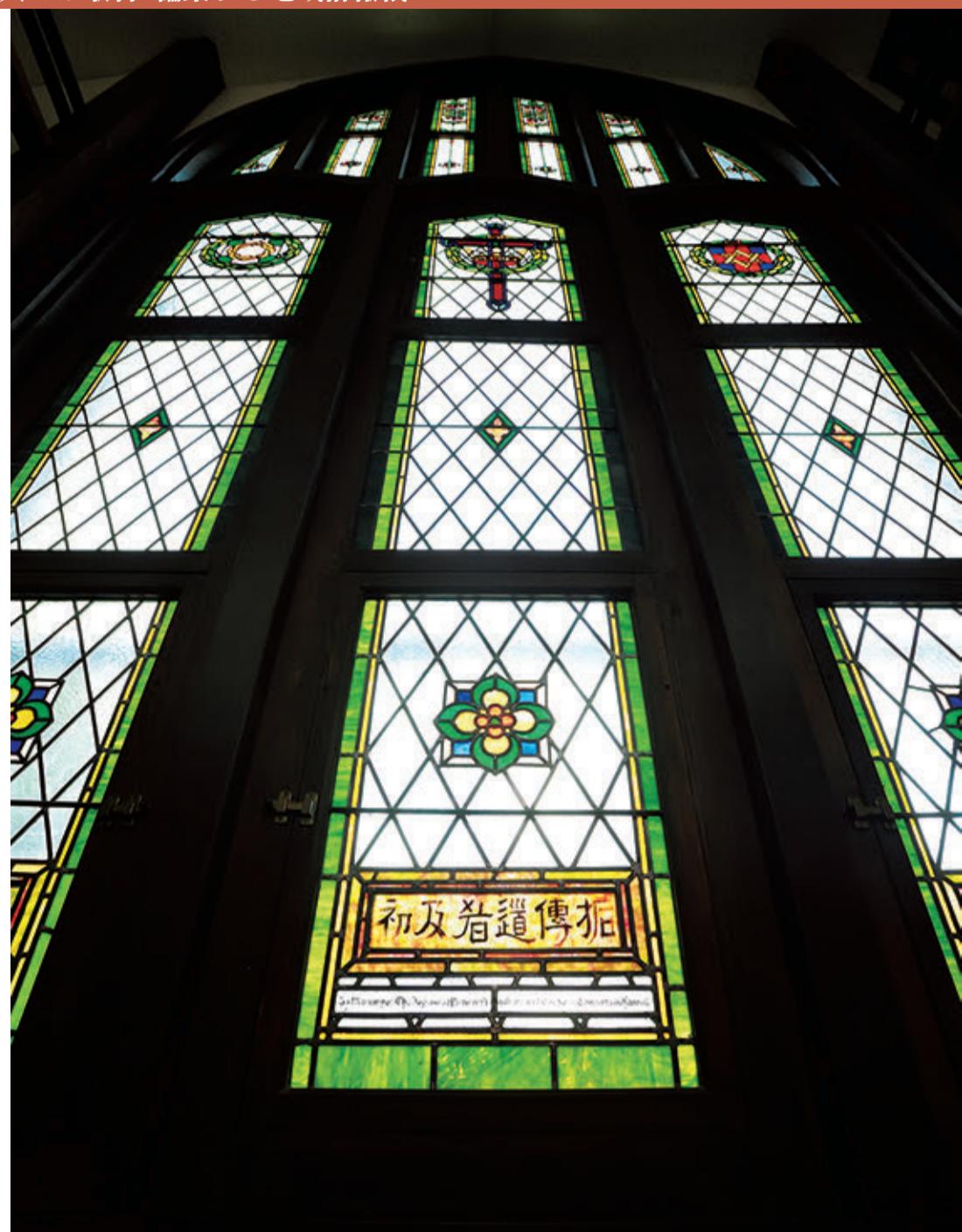
(羽淵紅洲「ステンド=グラス今昔物語」より)



小川を魅了したガラスは、安藤記念教会の作品にも使われている。礼拝堂の百合の作品。たおやかな花と葉の表現から小川の画力の確かさが感じられる。左右の意匠が、あわせ鏡のように反転しているところも見所である。周囲のガラスの中に十字架を配置し、華やかさの中にもここが教会であることを認識させている。

道路に面した大窓の作品には、創設者である安藤太郎氏の想いが込められている。最大の特徴は、下部にある「布哇日本人開拓伝道者及初回受洗者記念」の文字。布哇はハワイのことである。安藤氏は語学力を買われ外務省に勤務、ハワイ総領事として活動する中でキリスト教の洗礼を受けた。これが彼の人生の大きな転機であり、この教会の成り立ちに繋がる。また上部には、バラの花と葉が配置されている。これは教会の竣工三年前に亡くなった妻・文子さんへの愛情であると思われる。文子さんが生前書き続け好きだった花、それがバラであった。

なぜ小川がこの教会に関わることになったのか。それは安藤夫妻が銀座教会の会員となったことに始まる。銀座教会は1912(明治45)年



に竣工したが、建築時から関わった安藤氏が重厚な石造を気に入り、同じ設計者に自身の会堂の建築を依頼した。ステンドグラスの担当者を決定した人物は不明だが、設計者からの依頼に応えたものと考えられる。銀座教会の当時の建物は残念ながら焼失、わずかな資料を残すのみとなっている。

小川三知の作品で関東大震災、第二次世界大戦をくぐりぬけ当時の姿を残している作品はごく稀である。この貴重な作品をぜひご覧いただきたい。見学申し込みは事前にお電話でのご予約をお願いいたします。



建築家吉武長一(1879~1953)が設計を担当した礼拝堂。正面左右に設えられた百合の作品は、同じ图案を反転して作ったと思われる。鉛線の格子の上に浮かぶように描かれた百合の花束、花は方向や開き具合に変化をつけており、重たくなりがちな葉の重なり具合は絶妙、小川の美意識の高さを窺わせる。

*見学の予約は日本基督教団 安藤記念教会まで
港区元麻布2-14-16 電話／03-3442-4988

*日本のステンドグラス黎明期の作品の情報を
お寄せください。

小川三知を讃える会ホームページ
<http://www.sanchi.info/index.html>



上から
ステンドグラス作家 小川三知
教会を設立した 安藤太郎氏
夫と共に回心した 安藤文子氏

井村 馨(いむら かおり)

論文「小川三知の生涯と作風の変遷～新出資料からの考察～」の執筆をきっかけに、小川三知研究家として活動をはじめる。現在はステンドグラス作品の調査・修復・保存活動、講演・見学会の企画・開催を行っており、今年はNHK「美の壺」に出演した。

●参考文献

羽淵紅洲「ステンド=グラス今昔物語」「新住宅」1968年2月
銀座教会編『銀座教会九十年史』銀座教会、1981年
安藤記念教会100周年準備委員会
『2017年100周年記念 安藤記念教会の歩み～主より賜った恵みすべてをささせて～』
日本キリスト教団安藤記念教会、2017年





滝澤莉咲子さん(たきざわりさこ)

法学部の4年生。日常生活やビジネスの場に、政治や政策がどのような影響を与えるのかという視点にたって、広く世界の政治を学んでいる。具体的にはラテンアメリカと日本の「街づくり」を比較研究し論考をまとめている。



A



B



安元瞳さん(やすもとひとみ)

法学部の4年生。消費者の権利や義務を学ぶ「消費者法」、企業に関する「企業法」や地球環境に関する「環境法」を学び、知識を深め、身近なところで起きるさまざまな消費者問題や環境問題の解決可能な支援を提供できるよう考えている。

THE 六本木・麻布エリアに集う若者たちの今声 VOICE

キャンパスライフとアルバイトは、憧れの港区六本木・麻布エリアで

瞳さん 六本木ヒルズでアルバイトを始めるきっかけとなったのは、10年前に長兄が同じコーヒーショップでアルバイトをしていたことが影響していると思います。朝7時開店の当番の時は、5時台から店内の準備をしアルバイトを終えた後は大学の講義を受け、充実したキャンパスライフを送っていた兄を見て、当時、小学生だった私は憧れを抱いていました。

大学生となった今は、兄と同じようにアルバイトを終え、大学のある白金キャンパスへは麻布十番商店街を通り、徒歩で45分ほどの距離を通学しています。

歩くことによって、街の周囲の環境音や風景に注目しながら、デジタルデトックスをする時間を取りることもできています。また他方では、移動することでポイントがたまる、ポイ活^{*2}アプリを活用して、日々の活動量を可視化し将来的な健康リスクを低減するよう心掛けています。

莉咲子さん 3年前の大学進学と同時に、芝浦に単身赴任中の父親のもとで一緒に住むこととなりました。もともとは福岡の博多っ子です。芝浦から大学のある三田キャンパス、そして瞳さんと同じアルバイト先のコーヒーショップ

がある六本木ヒルズと三角地帯を徒歩で行き来する毎日です。憧れの街を散策しながら過ごす日々が充実しているのは、このエリアの例えば、坂道の多い街の中を、小さなコミュニティバスが総合支所や病院といった私たちの日常生活に必要な場所を往来し、住み良い街が実現しているところに「共感」を覚えているからだと思います。

—緑に包まれ、人と人をつなぐ広場のような街、Modern Urban Village—麻布台ヒルズをリアル体験して

瞳さん 情報を求める際に検索エンジンではなく、動画投稿型SNSやハッシュタグからの検索機能が充実しているSNSを活用しています。スマートフォンの縦長画面に次々と映し出される画像の中で「共感」出来るものに反応します。今回伺った麻布台ヒルズも、緑あふれる街並みや健康的で美味しいような食事をSNSで見て、行ってみたいと思っていた場所でした。

麻布台ヒルズのテーマの一つ、グリーン&ウェルネスを体现できる麻布台ヒルズカフェ^{*3}で、自然味あふれる果実を使ったジュースと人気メニューを味わいます。^{うんじゅう}温州みかんを使ったストレート果汁^{*4}には、^{べタ}クリプトキサンチンが多く含まれるため、日常生活でデジタル機器による目の不調を回復したい時や健康維持のために、積極的に摂るよう心がけています。

莉咲子さん 街の名前を冠したこちらの麻布台ヒルズカフェ^{*5}は、神谷町駅からセントラルウォークを通りガーデンプラザCへ、そこから地上へ上がるところが中央広場に面した場所にあります。(写真[A])

麻布台ヒルズのコンセプトは、広場のような街をつくること。そんな街の象徴であり、街の真ん中

1990年代後半から2000年代初頭に生まれた、Z世代と呼ばれる若者たちが、今、注目を集めている。Z世代の実年齢は、これから社会の中心となっていく20歳代の若い世代をさしている。

Z世代の消費行動の特徴は、SNSから収集した情報をリアルな「体験」を得て発信する訴求力にあるといつていい。自分が価値を感じるモノや心動かされるコトに対して金銭を投入したり、ブランドよりも、開発された商品のストーリーやコンセプトに「共感」出来るかどうかで商品を選択する。また、彼らの多くはデジタルプラットフォーム^{*1}を日常的に活用したライフスタイルを送っている。

デジタル世界と現実世界を行き来する彼らが麻布台ヒルズで「体験」する、リアルな声を届けたい。



に位置する中央広場では、先に瞳さんが飲んだジュースを、to goとして飲み物を片手に点在するベンチに座りくつろいだり、カフェのテラス席で本格的料理を楽しんだりできます。用途に応じて思い思いに過ごせる空間になっているので、街のリビングのように自由に過ごすことができます。集まった人が楽しそうに過ごしている麻布台ヒルズは、まさに理想の街づくりを実現していると、私たち世代でもそう「共感」する人は少なくないはずです。

*1 SNS、ECサイト、動画配信サービスといったユーザー・事業者などを結びつけるシステムやサービスのこと。

*2 さまざま方法でポイントを貯める活動のこと。または貯めたポイントを活用する方法。

*3、5 麻布台ヒルズカフェ(写真[A]):中央広場前にテラス席を設け1日を通してカフェやアラカルトメニューを気軽に楽しめるカフェ&カジュアルダイニング。広場へつながるオープンスペースではイベントやプロモーションが開催される。

*4 「愛媛県産みかんジュース」(写真[B]):絞った果汁そのままジュースにするため、温州みかん果実本来のコクのある味と爽やかな香りが楽しめる。栄養価も高くみかんの美味しさを充分感じられるストレートジュース。

(謝辞)取材日前日までイベントが開催され繁忙中のところ取材を御受諾いただき、お時間を頂戴いたしまして、貴重な画像を拝借させていただきましたこと、森ビル株式会社麻布台ヒルズ運営推進室の皆様、麻布台ヒルズカフェの皆様に深く感謝申し上げます。

●取材／撮影協力
麻布台ヒルズカフェ
港区麻布台1-3-1麻布台ヒルズ森JPタワー地下1F Tel:03-6277-6623

(取材・文／おおばまりか)





オヴィディウ・ラエツキ特命全権大使

ルーマニア

面積:約23.8万平方キロメートル(本州とほぼ同じ)

人口:約1,906万人(2023年)(出典:ルーマニア国家統計局)

首都:ブカレスト(人口約214万人、2023年(出典:ルーマニア国家統計局)

言語:ルーマニア語(公用語)、ハンガリー語

元首:ニクショール・ダン大統領(Nicușor DAN)

議会:二院制(上院133議席、下院330議席)、任期4年

参考:外務省ホームページ
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/romania/data.html>

取材/ルーマニア大使館

大使を訪ねて
麻布の"世界"から

Romania

ルーマニアに脈々と受け継がれる、
時代を生き抜くための「レジリエンス」

西麻布交差点に程近い、外苑西通りから大横丁坂を少し登った所にルーマニア大使館はある。厳重なエントランスを一歩入ると、都会の喧騒を忘れさせる、別世界が広がる。夏の昼下がり、色とりどりのルーマニア刺繡が施された民族衣装がホールを彩る中、オヴィディウ・ラエツキ(Dr. Ovidiu RAETCHI)駐日ルーマニア特命全権大使よりお話を聞いた。

政治家出身の若きリーダー

ラエツキ氏は、2024年6月末より大使としてのキャリアをここ日本でスタートさせた。現在45歳という若さにして、国會議員を8年間務めたという経歴の持ち主である。歴史学・政治学の博士であり「来日後は日本文化や歴史への興味をますます深めている」という。古き良き商店街のある麻布十番エリアは大使のお気に入りで、六本木の大好きな書店に立ち寄る事もあるそう。



マラムレシュ地方の木造教会群。ルーマニアでは日本の神社建築との比較研究も行われているそう。

世界遺産マラムレシュ地方の
木造教会群

歴史博士である大使がルーマニアの観光にオススメするのが「マラムレシュ地方の木造教会群」。ルーマニア北部にある伝統的な木造建築で、世界文化遺産に指定されている。全てが木で造られる教会の建物は、日本の神社仏閣とも通ずるものがあり、近年、日本の神道における神社とマラムレシュ地方の木造教会との類似性が比較研究されているそう。宮大工を

ディウス)に由来する名前はルーマニアでは珍しくないというが、イタリアを始めとする他の国々では、もうあまり見られないという。現在のルーマニア語はラテン語が起源があるので、同系統のイタリア語・スペイン語・フランス語・ポルトガル語の習得は、ルーマニア人にとってさほど難しくはないようだ。

急速な日本文化の流入

日本の漫画・アニメが世界市場を席巻しているのは、ルーマニアも例外ではない。大使のお子さま達も日本のアニメに夢中で、大使も一緒に観させられているほど。しかしそうした状況は、共産主義から民主主義へと変わる時代に育った大使の世代とは、大きく異なるようだ。その時代は一番初めに入ってきた海外カルチャーといえば西洋文化であって、今の子どもたちのように日本の漫画やアニメに触れる機会そのものが無かったという。こうした影響もあって、ルーマニアで最も有名な日本人は「黒澤明」であるとの事。1960-70年代の独裁政権下に、人々が自由を求めて海外の映画作品を観ようとした事が関係しているようだ。

いつの時代も「創造性」を持ち続ける

大使が日本人にもっと知りたい事、それはルーマニア人の「創造性」であるという。ルーマニアは地政学的な要因ゆえ、多数の民族や大国の侵略・支配を受けてきた歴史がある。しかし「どんな困難な時代にあろうとも、素晴らしい創造性を發揮してきた」という。例えば、彫刻家のコンスタンティン・ブランクーシ(1876-1957)は小さな村の貧しい家庭に生まれたが、人生の大半をフランス・パリで活躍し、20世紀を代表する彫刻家となった。スポーツ分野では、女子体操選手のナディア・コマネチ

大使館エントランスに
展示されているルーマニアの民族衣装。独特の刺繡が一際目を引く。

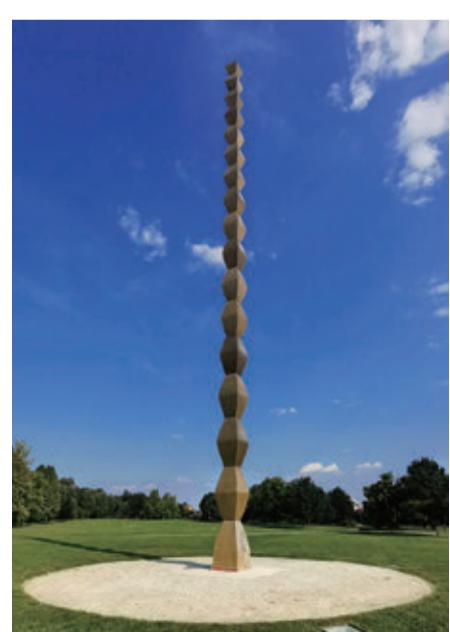
(1961-)が史上初の10点満点を記録した。ニコラエ・チャウシェスク(1918-1989)独裁政権下の1976年、モントリオール五輪での歴史的快挙である。当時の得点表示板は3桁しか無く、本当は「10.00」となるはずの記録が「1.00」と表示されてしまったエピソードは、今でも伝説となっている。「○○ガチャ」という言葉が流行する日本社会で、自分の人生を他人や出自のせいにせず、ひたむきに創造し続けるルーマニアの精神には、深く考えさせられるものがあった。



モントリオール五輪で史上初の10点満点を獲得したルーマニアの至宝、ナディア・コマネチ。

＊＊＊

今回取材をして、ルーマニアの長い歴史の中で培われてきた人々の「レジリエンス(困難を乗り越え回復する力)」を感じさせられた。大使自身もまた、そんなルーマニアのレジリエンスを体現する一人であろう。一方で、日本の大学に通われる娘さんについてにこやかに話す様子は、世界共通の父親の顔であった。今後、民主化後に生まれた若者たちによって、ルーマニアという国がどう創造されていくのか、楽しみである。



南西部の都市トゥルグ・ジウにあるコンスタンティン・ブランクーシの代表作「無限柱」。2024年に世界遺産に登録された。



ルーマニア中部シナヤにあるペレシュ城。初代国王カロル1世が建設した。ルーマニアには美しい城が多く存在する。

<http://tokyo.mae.ro/jp>

(取材/飯泉千種、石橋克彦、高柳由紀子、山崎絢加 文/飯泉千種、山崎絢加)

平和

そしてこれからのこと ～世代をつなぐワークショップ～

令和7年は、終戦から80年、港区平和宣言から40周年という節目の年。区内では平和について知り、考え、伝えるイベントが行われました。南麻布の「Café and Snack HARMONIA」でも、この夏、日常の中の平和を見つめ直し、感じ合うワークショップが2回開催されました。

長崎大学RECNAセンター長と語る 私たちの「平和」と座談会 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)の「対話」プロジェクト

HARMONIAは「調和」をメインコンセプトに、ゆっくりとした時間や交流を楽しめる空間づくりを大切にしています。さらに、もう一つの重要なコンセプトである「長崎」を通じて、平和の輪が広がっていくことを願い、さまざまな平和活動やワークショップを継続的に行っています。



平和活動を通じて交流のある、ハルモニア代表 高田春奈社長(長崎出身)と、長崎大学核兵器廃絶研究センター長(RECNA)の吉田文彦教授の対話により、今回の取り組みが実現しました。

第1部では、吉田教授と高田さんが「対話」や「平和」そのためにできることなどを中心に対談を行い、第2部では、関係者、スタッフ、見学者も交え、「ほっとできる空間の大切さ」「平和への思い」などについて語り合いました。

当日は、平和活動に取り組む高校生、平和について語り合い活動したいと考えている方々、長崎出身の親子、平和を願う高齢の方など、幅広い世代や背景を持つ方々が参加しました。



Café and Snack HARMONIA
東京都港区南麻布1-6-5 麻布十番ハルモニアビル
TEL 050-1331-4970 <http://www.espring.co.jp/>
1F (Café)
2F (Select Shop)
B1F・3F・4F・7F (Rental Space)



子どもたちと共に考える“平和”

毎月開催している子ども食堂「ハルモニアこどもカフェ」は、終戦記念日直後の8月17日に子どもも大人も、世代をこえて平和を感じながら過ごす時間となりました。

おやつタイムでは、戦時中の食事と現在の食事を比べてみよう、当時をイメージした玄米おにぎりや味噌汁と、現代的なおにぎり、フライドポテトやジュースを並べました。子どもたちは興味津々で、食べ比べを楽しんだあと、長崎出身の前田真理アナウンサーによる絵本4冊と、長崎の高校生が制作したデジタル絵本の読み聞かせが行われました。



子どもたちは絵本を見ながら、「平和のときは楽しそう、明るい」「戦争のときは暗い、さみしい」「あらそい」をめぐって、立場によって見方や考え方方が違うこと、どうすれば解決につながるのかという意見も子どもたちの口から自然に出てきました。

大人の参加者からも、「大切にしているものを奪われたときの言ひようのない感情」「大事なものを守りたい」「もう一度、自分自身のために読み返したい」といった声があがりました。

高校生平和大使とは

「1人ひとりの力は微力だが、無力ではない」をスローガンに掲げ、今年は18都道府県から選ばれた高校生が参加しています。

2024年、日本被団協(日本原水爆被害者団体協議会)がノーベル平和賞を受賞した際、高校生平和大使の代表4名が授賞式に出席し、現地(オスロ)の高校生や若者と交流を深め、共に平和の大切さを語り合うことで、活動の輪をさらに広げることができました。

ワークショップを支える笑顔



ひじかた まいこ
土方 麻衣子さん

HARMONIA 管理責任者。長崎県出身。港区で仕事と子育てに励んできた経験から、長崎のようなあたたかさや人とのつながりを大切にしています。人々がほつと安らぎ、自分自身や大切な人を思いやる気持ちを自然に表現できる、心地よく身近な場所でありたいと考えています。

まえだ まり
前田 真理さん

長崎市生まれ、長崎在住。フリーアナウンサー。Peace by Peace NAGASAKIの代表。国内外で原爆について取材を行なう、朗読や出張講座を通して、学校や地域で「平和」について考える場づくりを行っています。

はやま たかひろ
羽山 崇裕さん

長崎県雲仙市出身。第24期 高校生平和大使として活動。HARMONIAのスタッフ。高校生平和大使としての経験から、「自分の思いを自分の言葉で伝えること」の大切さを学び、それを生かして平和活動のワークショップを企画・開催している。



Bon appétit

召し上がり 給食はフレンチ! ボナペティ ～パリ市国際友好都市記念給食～

令和7年3月、港区はフランスパリ市15区と相互に交流を深めて国際力を強化するため、国際友好都市提携を締結しました。7月14日のフランスナショナルデー(建国記念日)に合わせ、記念給食を港区立小・中学校全校でフランス料理を取り入れ、提供しました。

メニューの監修は新橋のレストランラフィネスの杉本敬三シェフが担当。

どんなフランス料理が提供されるのか、ワクワクしながら、区立小学校を取材しました。



調理室の作業風景。メニューは全て加熱したものを提供している



カクテルはお酒のイメージがありますが、色々なものを混ぜ合わせた、という意味もあります。紅茶をゼリーにして、中にフルーツを入れたデザート



クロックムッシュ

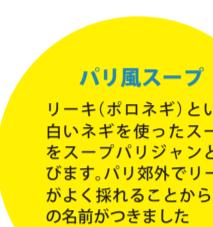
クロックはカリカリした、ムッシュは紳士という意味です。おじさん達が好んで食べる姿がそのまま名前になりました。ホワイトソースとチーズをたっぷり使ったハム入りのパン



フランスでは、お米は野菜と同じように扱いで、サラダにしたり、付け合わせとしても食べられています。さっぱりと仕上げ、夏にぴったりのサラダです



本日のメニュー
(料理の解説は杉本シェフ)



リーキ(ボロネギ)という白いネギを使ったスープをスープパリジャンとよびます。パリ郊外でリーキがよく採れることから、この名前がつきました



が。「スープが温かくておいしい!」「わたしもスープが一番好き」と好評です。「クロックムッシュのチーズがいいと思います」「お米のサラダ初めて食べた。ツナも入っていたし、マヨネーズの味でおいしい」ワイワイ、ガヤガヤと賑やかな食事風景は、見ているだけで、こちらもシアワセ気分になります。「デザートは苦いのや酸っぱいのや、甘い味とか色々な味がしておいしい」

一方、少しお姉さん、お兄さんの4年生の教室はどうでしょう。「わたし、ズッキーニ苦手。でもスープはおいしい」「僕はズッキーニ初めて食べた。これからも食べたいです」「クロックムッシュはとろけるチーズと

1番スープが好き、
2番お米のサラダ、
3番クロックムッシュが
美味しいかった。

いつも食べている給食と違った、パンが硬くて

フランス式のクロックムッシュかなと思った。ズッキーニスープは初めて食べた。

紅茶のカクテルが
紅茶のゼリーの
ほろ苦さとフルーツの
甘酸っぱさが合わさって
とても美味しい。

ハムがとてもマッチしています」「デザートの紅茶の味が大人な味だと思った」「紅茶のほろ苦さとフルーツの甘酸っぱさが合わさっていい味になっています」さすが4年生、大人顔負けの的確な食レポです。こちらでもお替わりの行列ができていました。

食文化から広がる国際交流

1年生も4年生も「またやってほしい」「ちがうフランス料理を食べてみたい」とアンコールリクエストが多く聞かれました。

私たちもご相伴にあずかりました。限られた予算の中で、充実したメニュー構成は驚くばかり。大人も充分満足できる内容で、器を換えて、牛乳をコーヒーにすれば、レストランで通用する味わいです。大変美味しいいただきました。

給食という食文化を通じ、国際都市・港区として、子どもたちが世界とつながる機会を広げていくって、とても素敵なことだと思いました。次回のメニューも大いに期待が持てそうですね。ご馳走様でした。



デザートまで提供の充実したメニュー

「いただきます」の前に、先生から今日のメニューの説明があります。「クロックムッシュ」「お米のサラダ」「パリ風スープ」「フルーツの紅茶のカクテル」のデザートまで登場。給食とは思えない手の込んだフレンチのコースにびっくり。

1年生の教室では、早速スープのお替わりに並ぶ子

東京都の23区は港区、渋谷区のように固有名詞です。一方パリは20区あり、中心部から時計回りに1~20の番号で区を構成しています。

姉妹都市となった15区はパリの南西に位置し、港区の人口が約26万人に対し、15区は約24万2千人と同規模。閑静な高級住宅街とショッピングエリアを有する区です。数キロに及ぶセーヌ川の河岸が続く街並みは、港区と同様、街に水辺がある点、メディア産業が盛んな点など類似点が多いことが特徴です。

パリ15区



レストランラフィネス 杉本敬三シェフ

フランス料理は高級なイメージですが、フランス人も皆さんと同じ家庭的な料理を普段食べています。日本でいう親子丼や照り焼きでしょうか。貧富の差は関係なく、すべてのフランス人が知っている料理を選びました。もしフランス人に出会った時に、昔クロックムッシュを給食で食べたよってお話ししてみてください。外国のお友達が、給食で日本の照り焼き食べたよって、あなたに話してたら、親近感湧きますよね。フランス人も同様に感じてくれると思います。



肥前 蓮池藩 肥前 鹿島藩



花杏葉



『増補港区近代沿革図集 麻布・六本木』から転載

ミッドタウン側から国立新美術館方向を見る。
右手の高台が旧蓮池藩邸(武家地)、左手の低地が町人地

かつて麻布に上屋敷を構えた大名家とその家紋を紹介する連載を66号からお届けしている。今回とりあげる蓮池藩と鹿島藩はともに佐賀藩鍋島家の分家大名だ。江戸屋敷は麻布龍土町(現六本木7丁目)の隣り合う場所にあり、家紋は「花杏葉」である。屋敷と家紋からは、江戸の武家社会における本家と分家の関係も垣間見える。

本家の下屋敷を分家の上屋敷に

慶長12(1607)年、龍造寺家の家督35.7万石を継いで佐賀藩主となった鍋島家は、徳川家に対する服属を示すため、また鍋島一門の権力基盤を強化するため、慶長14(1609)年から寛永16(1639)年にかけて、小城(7.3万石)、蓮池(5.2万石)、鹿島(2万石)の分家大名を創設して江戸詰とした。この三分家は大名として将軍と直接の主従関係を結ぶ一方で、鍋島「家」の構成員として本家の統制をうける立場にもあった。江戸屋敷も幕府から直接の拝領ではなく、本家が拝領した屋敷のうち中屋敷と下屋敷がそれぞれの上屋敷として融通された①。

①佐賀藩鍋島家の拝領屋敷(『諸向地面取調書』から作成)

種別	名称	面積(坪)	備考	現在
上屋敷	桜田	11,669*		日比谷公園(千代田区)
中屋敷	溜池端	6,975		国立印刷局とその周辺(港区)
中屋敷	幸橋之内	2,702	小城藩屋敷	東京電力本社(千代田区)
下屋敷	麻布龍土町	8,925	蓮池藩屋敷 鹿島藩屋敷	国立新美術館 東隣(港区)
下屋敷	麻布坂下町	2,672**		賢崇寺とその周辺(港区)

*地続きの「永御料地」25坪、「当分御預地」675坪を含む

**地続きの「麻布雜色町一本松抱屋敷」1,549坪を含む

下屋敷の一般的な役割は、被災時の避難場所、物資貯蔵所(蔵屋敷)、庭園や菜園などで、郊外の広い敷地に置かれることが多かった。鍋島家でも安政元年2月29日の大火で、桜田上屋敷、赤坂溜池端中屋敷、麻布雜色町抱屋敷を焼失した際に、蓮池藩邸が避難場所として使用されたという記録が残っている。

屋敷の場所(麻布龍土町)

文久2(1862)年の地図②に、鍋島備前守(鹿島藩)、鍋島甲斐守(蓮池藩)の屋敷地が記されている。ともに「松平肥前守(佐賀藩)下屋敷 借地」と記載されているのは前述した事情のとおりだ。現在の地図③と見比べると、地図左上の「教運寺」、右下の「天祖神社(神明)」、周辺の道路(現在の外苑東通りや龍土町美術館通り)の位置がほとんど変わっていない。また、屋敷の左下に隣接する「伊達遠江守」屋敷地は現在の国立新美術館である(68号参照)。よって、鍋島家の屋敷跡地は地図水色の部分と特定できそうだ。

ミッドタウンと国立新美術館を繋ぐ、高低差のある二本平行な直線道路も、江戸時代からあった道である。当時は蓮池藩邸の敷地境界であり、武家地(地図白色部分)と町人地(灰色部分)の境界でもあった。それを知った上でこの場所に立つと、「武家地は高台、町人地は低地」に区分されていたことが改めて実感できるのではないだろうか。④

さて、明治維新ののち、全ての旧武家地は新政府に上地されて町人地に組入れられる。そして「筆」と呼ぶひとつの区画毎に番地と所有者が定められた。鹿島藩邸跡地4,518坪は鍋島家の所有を離れ、旧藩主鍋島直彬は芝栄町7番地(現芝公園4丁目メソニックビルあたり)に3,402坪の土地を得て転居した。蓮池藩邸跡地5,827坪は旧藩主家の鍋島直柔の所有となるが、明治中期に直柔が転居した後には一般の住宅地となる。現在も中層のマンションやオフィスビルで構成される比較的閑静なエリアである。

●協力・家紋の画像提供
公益財団法人鍋島報效会(微古館)

●主要参考文献

- 藤野保『佐賀藩の総合研究』吉川弘文館、1981年
- 渋谷葉子『赤坂溜池端屋敷の変遷と利用』(株)四門『肥前佐賀藩鍋島家屋敷跡遺跡発掘調査報告書』2017年
- 野口朋子『鍋島家の家紋・杏葉紋について』(佐賀県立佐賀城本丸歴史館 研究紀要第2号) 2007年3月
- 文化財建造物保存技術協会『重要文化財護国寺月光殿<旧日光院客殿>保存修理工事報告書』2014年
- 法華宗(本門流)本覺山妙壽寺『妙壽寺客殿 旧鍋島邸について』2009年

杏葉紋の獲得と変遷

杏葉とは馬の鞍などに付ける中国伝来の装身具である。鎌倉時代に公家の家紋として広がり、室町時代中期以降に武家でも用いられるようになった。戦国時代、豊後(現大分県)の大名大友家が杏葉を家紋とし、手柄のあった部下にもこれを与えて「同紋衆」として優遇したことから、大友家の勢力が拡大するにつれて、杏葉紋は九州諸将の羨望の的となっていた。元亀元(1570)年の今山の戦いで、鍋島直茂が大友軍を破ったときに、戦勝の記念として、杏葉を鍋島家の定紋にしたと伝わっている。鍋島家伝来の器物資料に表わされた多数の杏葉紋を集積、比較検討して、紋の種類・変遷・用いられ方などを論考した野口朋子氏によれば、当初は鍋島一族が同じ花杏葉紋を使っていたが、17世紀後半から本家の紋には筋状のデザインが加えられ、18世紀はじめには、「本家は筋杏葉、本家の部屋住みや分家は花杏葉」の区分がなされたという。また本家の女性の婚礼調度は、鍋島家より家格の高い家に嫁ぐ時は筋杏葉、そうでない場合は花杏葉が使われたという。江戸時代の大名家にとって家紋の意匠は、自らの立場や上下関係をも表わす重要なものだったのだ。



屋根瓦に残る花杏葉紋

蓮池鍋島家10代目で子爵となった鍋島直柔が建てた自邸建物が、護国寺(文京区)と妙壽寺(世田谷区)に移築されて現存している。直柔が龍土町から狸穴町(現麻布台2丁目)に転居した後の明治中期の建設で、昭和2(1927)年にロシア大使館に土地を譲渡した際に、二寺に移築されたものである。ともに屋根瓦に花杏葉紋があり、鍋島家との縁を伝えている。護国寺では月光殿の玄関小書院として使用されており、屋根の上に複数の花杏葉紋を見つけることができる⑤。妙壽寺では客殿として使用されている。屋根を葺替えているが、オリジナルの屋根瓦は大切に保管されており、その一部が客殿玄関脇に飾られている⑥。(護国寺月光殿、妙壽寺客殿ともに、内部は非公開)



護国寺月光殿玄関



妙壽寺客殿



明治期の狸穴町に建てられた「旧鍋島子爵邸」の詳細については、次号以降で改めて紹介したいと思うが、まずは、長い時間と空間を旅して眼前の屋根瓦に残る「花杏葉紋」をご覧いただきたい。戦国武将が命をかけて勝ち取り、厳しい身分社会のもとで意匠に変化を加えたながら、今日迄受け継がれた家紋である。

(取材・文・写真／八巻綾子)



都税事務所からのお知らせ



小規模非住宅用地の固定資産税・都市計画税を減免します(23区内)

一画地における非住宅用地の面積が400m²以下であるもののうち200m²までの部分について、固定資産税・都市計画税の税額の2割を減免します(個人又は資本金・出資金の額が1億円以下の法人等が所有するものに限る)。減免を受けるためには、令和7年12月26日(金)までに申請が必要です。

*こちらの申請は、インターネットでもお手続ができます。

*未申請の方で、小規模非住宅用地を所有していると思われる方には、9月までに減免手続のご案内を送付しております。

お問合せ／港区にある物件について

電話／港都税事務所 03-5549-3800 (代表)

中小企業者向け省エネ促進税制～法人事業税・個人事業税の減免～

東京都では、中小企業者が行う省エネ設備等の取得を支援するため、法人事業税・個人事業税を減免しています。

詳細は、東京都主税局HP「環境に関する都税の軽減制度について」をご覧ください。

お問合せ／●中小企業者向け省エネ促進税制について

港都税事務所(代表) 03-5549-3800

主税局課税部(法人) 03-5388-2963

主税局課税部(個人) 03-5388-2969

●地球温暖化対策報告書制度・導入推奨機器について

クール・ネット東京

地球温暖化対策報告書制度 0570-03-3517

導入推奨機器 03-5990-5087



都税における納税証明は、

すべての都税事務所・都税支所・支庁で申請できます

納税証明はすべての都税事務所・都税支所・支庁で申請できます。ただし、申告・納付後1~2週間以内に納税証明を申請する場合は、①領収証書の原本(領収印のあるもの)②申告書の控え※(受付印のあるもの)の両方をお近くの都税事務所等の窓口までお持ちください。

※②は申告税目のみ

お問合せ／港都税事務所 電話／03-5549-3800 (代表)

にせ都税メール・電話にご注意ください！

都税事務所の職員を装って、個人情報を不正に取得したり、金銭をだまし取ろうとする事例が発生しています。不審に感じた場合は即答せずに、下記問合せ先までご連絡ください。

また、万が一被害にあわれた場合は、すぐに警察にご連絡ください。

お問合せ／総務部総務課相談広報班

電話／03-5388-2925

点字で課税の内容をお知らせします

東京都主税局では、納税通知書の内容を点字でお知らせしています。対象となる税金は、固定資産税・都市計画税(23区内)、法人事業税、自動車税種別割です。お知らせする内容は、税金の種類、納税義務者氏名、納税通知書番号、納期限、税額、問合せ先です。ご希望の方は、令和8年2月27日(金)までに下記問合せ先へご連絡ください。令和8年度分から点字のお知らせを同封します。なお、すでに利用されている方は、改めてご連絡いただく必要はありません。

お問合せ／主税局総務部総務課相談広報班

電話／03-5388-2925



麻布坂カレーフェスタ2025

港区麻布地区総合支所協働推進課が展開する地域事業活性化プロジェクト「麻布坂カレー」が、8月23日(土曜)～11月30日(日曜)の期間、麻布エリアを舞台に「麻布坂カレーフェスタ2025」を開催しています。区内の高校生が考案したキャラクター「あざぶらし」グッズがもらえるスタンプラリーや、集めたくなるオリジナル標柱など、食べて・歩いて・集めて楽しい仕掛けが満載です。ぜひ、お楽しみください。

期 間 8/23 ~ 11/30

対 象 どなたでも

参加費 無料



詳しくはこちる



お問合せ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当
電話／03-5114-8812

麻布坂カレーMAP

・麻布カレーフェスタ2025・

The map highlights ten curry spots across the Azabu area:

- ① 麻布坂カレー インディアンレストラン西麻布 by KENBOKKE
- ② 鉄砲坂カレー 麻布算卦 広尾本店
- ③ 南部坂カレー 有栖川食堂
- ④ 鳥居坂カレー マザーラインディア 麻布十番店
- ⑤ 麻布坂カレー HACHINYA curry
- ⑥ なだれ坂カレー キーマカレー専門店「飛翔飛」(ひびき)
- ⑦ 桜坂カレー shojin 宗廟
- ⑧ 鉄砲坂カレー NOM the ART
- ⑨ サクラ坂くさくら坂カレー 元祖麻布ヨーロピアンカレー専門店「ビリビリ」(PILIPILI)
- ⑩ 永坂カレー 洋食屋 大輔

AZABU 地域事業活性化プロジェクト

港区麻布地区総合支所だより



みんなと結ぶ「へいわ」
~港区平和都市宣言40周年~

若者世代で構成する港区平和都市宣言40周年事業実行委員会が企画した区民参画型事業のハガキと折り鶴で結ぶ「へいわ」に参加してみませんか。この事業は、2つの取り組みで構成されています。



区民参画型事業ハガキと折り鶴で結ぶ「へいわ」に参加してみませんか

①ハガキアートで描く「へいわ」

あなたが思う平和や平和を感じる瞬間をテーマに、ハガキサイズの用紙にイラストやメッセージを描きます。集めたハガキアートは、平和関連事業での展示や、平和都市宣言40周年事業で制作する予定のモザイクアートの素材にします。

②「へいわ」の願いを込めた折り鶴の再生・循環プロジェクト

世界中から広島平和記念公園に届く折り鶴を再生紙に加工した再生おりがみで、平和の祈りを込めて再び折り鶴を作成します。この折り鶴を広島や長崎に捧げ、平和への想い・祈りを循環させることをめざします。

これらの取り組みは、区の平和事業や保育園、児童館、子ども中高生プラザで取り組む他、下記期間中に区内の施設で参加できます。この周年の機会に、平和について考えてみませんか？

とき 12月12日(金)まで

ところ 各いきいきプラザ、区民センター、男女平等参画センター

お問合せ／港区総務部総務課人権・男女平等参画係

電話／03-3578-2014



ハガキと折り鶴で
結ぶ「へいわ」

住まいの防犯対策に要した費用の助成を 令和7年度臨時に拡充しています！



近年、強盗事件等が顕著となっていることから、自宅の防犯対策が急務となっています。

「安全で安心な生活」が送れるよう自宅の防犯対策を充実しませんか！

対象 区内に住民票を有している世帯

助成対象 現在居住している住宅に行った防犯対策

(鍵の交換、窓への防犯フィルムの貼付、防犯カメラの設置等)

助成費用 区が定めた品目等に要した費用の4分の3の額(5,000円以上、上限額40,000円(100円未満切り捨て))

申請方法 電子申請、郵送、窓口持参

●電子申請の場合／以下のURLから申請を行い、申請者の氏名・領収年月日・防犯対策の内容等の必要事項が記載された領収書(原本)をお住まいの地区の協働推進課協働推進係へ郵送または直接持参。領収書が電子データの場合は、申請時に添付可能。



●郵送または直接の場合／申請書に必要事項を明記の上、領収書(原本)を添えて、お住まいの地区的総合支所協働推進課協働推進係へ。

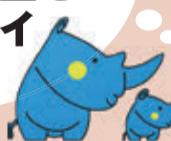
注意事項

- 助成対象の防犯対策に要した費用を支払った日から90日以内に、電子申請または申請書および領収書原本をご提出ください。
- 領収書は返却できません。
- 助成は1世帯1回限りです。
- 賃貸住宅にお住まいの人は、必ず所有者の了解を得てください。

お問合せ／各総合支所協働推進課協働推進係

電話／芝：3578-3123 麻布：5114-8802 赤坂：5413-7272
高輪：5421-7621 芝浦港南：6400-0031

ザ・AZABUへの
ご意見・ご要望を
お寄せください



住所・氏名・職業(学校名)・電話番号・ご意見・ご要望(日本語又は英語、字数・様式自由)を書いて、直接又は郵送・ファックスで、〒106-8515 港区六本木5-16-45 麻布地区総合支所 協働推進課 地区政策担当へ。

●電話／03-5114-8812 ●FAX／03-3583-3782

地域情報紙「ザ・AZABU」は
ホームページからも
ご覧になります。

「ザ・AZABU」は
英語版も4カ月後
に発行しています。



買い物
するなら
地元の
商店街で

フォローをお願いします！



港区の地域情報をX(旧Twitter)
で、麻布地区で開催されるイベント
や地域の出来事など様々な話題を
Instagramで配信しています。



東京都港区【地域情報】



各支所では、地域情報紙(情報誌)

- 芝地区総合支所「しばたぐ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」

を定期的に発行しております。支所内各戸配布のほか、港区立図書館(高輪図書館分室を除く)・各いきいきプラザで閲覧可能です。

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。

年中無休／午前8時～午後8時

※英語での対応もいたします。

電話／03-5472-3710 FAX／03-5777-8752

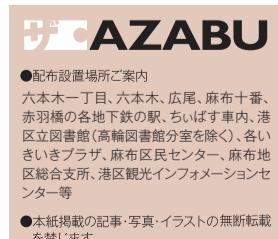
お問合せフォーム／<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

"Minato Call" information service

Minato call is a city information service, available in English every day from 8a.m.-8p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;

Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>



Staff 飯東千種

石橋克彦

井上まゆみ

井口真莉奈

おおばまりか

鎌谷芳勝

加生武秀

加生美佐保

佐藤正子

高柳由紀子

田中亞紀

田中寛康

富田弥生

中村麻美

奈良美扶

畠中みな子

樋口政則

堀内明子

堀切道子

八巻綾子

山崎絢加

Mai S.

Sumiko

編集後記

編集委員になって二回目の取材が終え
たばかりの新米です。港区民としては7年
が過ぎようとしていますが地域にお住いの方との交流もさ
ほどなく淡々とした日々を過ごしてきました。しいて言えば、か
わら版に掲示してある集いで、様々な国の食文化に触れる体験
で食材を用いて大使館に入ったぐらい。最近、港区立の中学校
の修学旅行はシンガポールであることに驚き、夏には方々で盛
大なお祭りが開催されるなど意外と地域住民との繋がりが多い
いことに興味津々です。

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽に問合せください。

年中無休／午前8時～午後8時

※英語での対応もいたします。

電話／03-5472-3710 FAX／03-5777-8752

お問合せフォーム／<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form.html>

"Minato Call" information service

Minato call is a city information service, available in English every day from 8a.m.-8p.m.

Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752;

Inquiry submission form: <https://www.city.minato.tokyo.jp/kouchou/kuse/kocho/iken/form-inquiry.html>